

R4年度 学校評価アンケートの考察について

【※肯定率：「評価4→そう思う」と「評価3→ややそう思う」を合計した数値】

1 児童自身に関わること

- 設問1「子どもは（私は）、学校へ行くのを楽しみにしている。」の問いに対して、保護者の肯定率は88.0%，児童は87.6%でした。今年度は感染症対策が少しずつではありますが緩和され、以前の学校生活に戻していくと同時に教育活動を工夫・改善してきたことで、児童が学校生活を楽しみにしてきてくれたことが大きな要因の一つだと思います。しかしながら、学校に楽しみを感じてない児童や、児童が楽しみにしているとは感じていない保護者の方々も見られます。今後、今まで以上に児童が、「学校が楽しい」と感じられるような教育活動の実践に努めていきたいと思います。
- 設問2「子どもは（私は）、よく挨拶をする。」の問いに対して、保護者の肯定率は82.3%と昨年度を上回りました。児童は校内において、とてもよく挨拶をしてくれます。挨拶の習慣が少しずつ身につき、家庭や地域でも進んで挨拶をする姿としてあらわれてきたのだと思います。今後も、引き続き習慣化を図るとともに、時と場に応じた挨拶も心掛けられるようにしたいと思います。
- 設問4「子どもは（私は）、友だちと仲よく生活をしている。」の問いに対して、児童の肯定率は95.2%と高くなりました。これもまた、密を避けた活動の緩和が進められたことや、グループ学習や校外学習等の班別行動が行われるようになったことも要因の一つと考えられます。児童が抱えている、友達や交友に関する悩み等に関しても未然防止を図るとともに、定期的な教育相談週間のみならず、その都度対応して改善・解消に努めていきたいと思います。
- 設問7「子どもは（私は）、進んで家庭学習（宿題を含む）をしている。」の問いに対して、保護者の肯定率は70.1%，児童は83.9%といずれも前年度を下回りました。しかしながら、教職員の肯定率は87.5%と逆に前年度を上回りました。今年度、校内の研究で「書く」力の育成に主眼を置き、指導実践を進めて参りました。児童が学習の振り返りを活かし、次時の課題を明確にして自分の考えを表現する姿が見られるようになりました。自ら学ぶ姿が、今後御家庭においても見られるよう、指導実践を継続していくとともに家庭学習についてもさらに支援をしていきたいと思います。

2 教職員に関わること

- 設問8「教員は、わかりやすい授業を行なっている。」の問いに対して、保護者の肯定率は92.5%，児童は95.2%と、前年度と比べて大きな差は見られませんでした。次年度以降、児童一人一人が「わかる・できる」という喜びをもてるよう、個に応じた指導・支援にさらに努めていきます。
- 設問9「教員は、思いやりの心など、豊かな心を育むための指導をしている。」の問いに対して、保護者の肯定率は90.9%，児童は94.4%と、前年度を下回りました。日々の生活指導で児童の心の育成に努めているところですが、児童一人一人に寄り添った十分な支援が足りない点を真摯に受け止め、児童の気持ちに寄り添うよう心掛けていきたいと思います。
- 設問10「教員は私のことをよく理解し、適切に評価している。」の問いでは、前年度同様に、否定的な回答の児童も若干みられます。感染症拡大状況に関連するかのようには児童を取り巻く状況が変化してきた中、児童の心身の成長や悩み等についても多様化していることも少なくないと思います。今後より一層、一人一人の児童理解に努めるためにも児童一人一人にしっかり向き合い、児童理解及び生徒指導上の問題の未然防止や対応に努めていきます。

3 学校全体に関わること・総括

前年度と比較して、評価が若干下がった項目が多く見られました。児童はもちろんのこと、保護者の皆様が鶉嶺小学校に対する期待の大きさの現れだと思っています。まだまだ行き届かなかった点や反省点・改善点を、教職員一同真摯に受け止め、さらなる改善を図り、本校の教育活動の充実に努めていきます。引き続き、皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。